

## COLUMN: 先生紹介 ▶ 伊藤 喜章 (万緑会教室長)



## 確固たる信念のもとに

私が初めてカイチに  
来た時、カイチは今福  
教室しかなく、諸口教  
室や今津教室はありま  
せんでした。塾としても  
現在のように毎年公立  
のトップ10校に多数生  
徒を輩出するようなどころではなく、本当に街の寺  
子屋のようなそんな塾でした。そんな中で、私は生  
徒に嫌われたくない一心で優しく、生徒の機嫌を  
伺いながら授業をしておりました。

ある日、サタン秀章…もとい、高木塾長が私にこ  
う仰いました。  
「伊藤君、うちのカイチという塾は人をつくる塾  
や。1教室に20名から30名も生徒が居たら、子供  
はなめてくる。そういった子らにしっかり勉強を教  
えるのは当然やけど、生徒を本当に可愛く思うな  
ら、機嫌取りばかりにならず、間違った方向に進ん  
でいたらしっかり怒りや!!!」  
大分昔のことなので、若干記憶は曖昧ですが、  
確かこのようなお言葉を頂戴したと思います。  
真面目で従順な私は、ジュニア先生の気遣に圧

倒されたのか、その後、初めて授業も聞かず度々  
遊んでいた生徒を叱りました。授業後、その生徒  
に授業中の態度が悪いから怒ったと理由を述べ、  
謝罪し、次からはきちんと遊ばず授業を受けるよ  
うにと話すと、生徒も心を入れ替え、次の授業か  
らは真剣に授業を聞き、目に見えて向上してい  
きました。後日親御さんに塾長からお詫びの電話を  
入れられていたことを知りました。

私がここから学んだのは、子供を本当に良くし  
ようとするには、確固たる信念をもって指導に当  
たらなければならないということです。生徒が間  
違ったことをしたり、悪い方向に進んだりしてい  
たら身を挺してでも注意をし、正しく導かなければ  
なりません。

そんな出来事から十数年経ち、昨年より産休の  
恭子先生に代わり、上本町教室に来ました。ここ  
は塾のメッカ。大手予備校から医学部専門塾、中  
入試最大手の塾から個別指導まで大小様々な塾  
が立ち並びます。

上本町教室に通われる親御さんは非常に熱心。  
生徒達はとてもポテンシャルが高いです。このよ  
うな状況下で、どうすれば子供が成長するか、確固

たる信念をどこに置くかを、ジュニア先生をはじめ  
として山内先生や他の先生方と考えてきました。  
その結果、自分のことは自分で考え、自分でする  
生徒に育てる。従来 of 単なる勉強ができるという  
ステレオタイプでは合格できない難関中学に通せ  
るような強い人間にしていける。そんな教場をつくる  
ことを信条に決めました。

そこで、苦渋の決断でしたが、上本町教室の3  
本柱の一つ、小学生で英検の準2級や3級を取得  
する成果をあげた、TKクラスを取りやめました。  
そして、不返転の気持ちで、小学入試クラスや能  
力開発クラスに特化し、ここで自ら考える強い生  
徒を育てていきます。

また、名称をこの3月1日より、新緑が燃えるが  
ごとく着実にかつ急速的に成長する子供達を親  
御様と共に見守っていきたいという気持ちから、  
中村草田男の「万緑の中や吾子の歯生え初むる」  
という俳句に由来した「万緑会」に変え、授業内容  
やカリキュラムを修正・改善してまいります。難関国  
立・私立小学校に通し、中学受験の前提となる基  
礎力をつけるため、スタッフ一同しっかり指導して  
まいります。今後とも万緑会をどうぞよろしくお願  
いいたします。

岡本の  
ちょっと  
イイ話

TEACHER'S VOICE 岡本 泰行 (今福・関目教室)

## 日本一周

引越越しを考えており、部屋の整理をしてい  
ると、いろいろな写真が出てきました。私は、小さい頃  
から旅行が好きで大学時代からは日本全国あても  
なくぶらぶらしています。

この景色とてもきれ  
いですよね。これは山  
口県にある元隅稲荷  
神社というところ  
です。この稲荷神社の鳥居  
とその先に見える断崖  
の景色が美しいとい  
うことで最近(2015年)アメリカCNNから『日本の  
最も美しい場所31選』に選ばれました。その結果、  
今ではたくさんの観光客でにぎわっています。私が  
大学を卒業したてのころ、一度この場所を訪れたこ  
とがあります。その時は正直、観光客もあまりおら  
ず閑散としておりました。昔と今で大違いです。こ  
のように新聞やテレビなどのメディアで取り上げられ  
るとやはり世間からの注目のされ方が違いますね。  
このように取り上げられるだけで今まで知らなかつ  
た人にとっては、新しい発見となります。

新聞やテレビだけでなく自分の中で注目するか  
しないかでも見え方が大きく変わり新しい発見が  
あります。この写真ですが、カジキマグロの銅像で  
す。私自身、釣りが好きで  
あったり、魚が好きであ  
ったりするせいかもしれま  
せんが、とてもインパクトが  
ありました。(インパクトが  
あり過ぎて、パソコン等の  
デスクトップの画像になっ  
ています)大学1年生の時  
に夜行の電車に乗って静  
岡県の焼津駅に行きました。当時は焼津に関して  
の情報は特になかったのですが、駅前のこの魚の  
銅像がとてもインパクトがあって焼津は魚が有名  
な町というところからいろいろ調べてみると→カ  
ツオの水揚げ量が1位で遠洋漁業の基地である  
など、いろいろな情報が出てきました。一人で夜行  
の電車に乗って旅行に出かけたことが初めてだ  
ったせいか妙に印象に残っている町です。それから  
もう5・6回は行ったかなあ。



これは日本の神話で有名な因幡の白兔の舞台  
となった白兔海岸にある神社です。白兔神社と言  
います。因幡の白兔の話は小さい頃から絵本など  
で知っていましたが、実際にその舞台に行くのは  
初めてでした。さすがに神話のお話なので、そこ  
で何を感じたわけではないのですが、本の情報だけ  
でなく、実際に自分の目で見てみるということが経  
験値をアップさせるものだと感じています。

このように旅行はいろいろな発見をさせてもら  
ったり、自分の中でいろいろな経験をさせてもら  
ったりします。親が旅行好きで、いろいろ地図が家  
にあったおかげで私の愛読書が、地図帳や、道路地  
図になっていました。そのおかげで中学校の社会  
は本当に助かりました。勝手に地名や山・川など  
が頭に入っていました。自分の趣味や、好きなこと  
をこうやって文章で表していくといつまでも書け  
そうです。本当に自分にとって好きなこと、没頭し  
たことに関してはみなさんこういうものかもしれま  
せんね。日本全国の良いところはまだまだいっぱい  
あります。身の回りにも普段何気なく通っている  
ところにももしかしたら何か新しい発見があるか  
もしれません。新聞やテレビやインターネットの情  
報だけでなく、実際に足を運んでみるというのも  
良い経験になるのかもかもしれませんね。

カイチからの  
お知らせ

■3月11日(月)は公立入試です。受験生の皆さんガンバレ!  
■3月16日(土)は入試説明会です。  
■3月23日(土)~3月29日(金)は春期休塾日です。  
■4月1日(月)より春期講習会スタートです。

■3月15日(金)は茶話会です。  
■3月19日(火)は公立入試合格発表日です。  
■3月30日(土)は小学・中学診断テストです。

## 生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

## Growing

March 2019  
Vol. 79

毎月10日発行

【本 部】  
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201  
TEL.06-6939-0008【今福教室】  
城東区今福西 2-9-20  
TEL.06-6934-4662  
【諸口教室】  
鶴見区諸口 4-14-9-1F  
TEL.06-6912-3984  
【今津教室】  
鶴見区今津南 1-6-2-1F  
TEL.06-6167-9722  
城東区今福西 1-10-17  
TEL.06-6935-2220  
【万緑会】  
天王寺区上本町 6-9-10-3F  
TEL.06-6772-5011【今福第2教室】  
城東区今福西 2-16-8  
TEL.06-6931-2000  
【関目教室】  
城東区関目 4-6-17-2F・3F  
TEL.06-6934-8117  
【古市教室】  
城東区古市 3-21-8  
TEL.06-6931-0467  
【エニグマ】  
中央区谷町 9-4-5-3F  
TEL.06-6777-1563

## 第9回教育講演会

## 「世界7大陸を走って学んだ諦めない心」

## 講師 北田雄夫



高木 秀章 (塾長)

いよいよ3月。今年も無事、たくさんの子供達を迎えて新学年を迎えるこ  
とができました。このGROWINGが届く頃には中3生も公立入試の真っ只  
中(終わっているかな)。もうすぐ、本格的に春が来ます。

始まりの春にちなんで、毎年恒例の春の遠足は4月21日(日)に行こうと  
考えています。場所は兵庫県のユニピアささやま。今回の企画担当はカト  
リーナ先生。カイチ職員の恒例クリスマスパーティーや昨年のTKの1泊  
キャンプなど彼女の企画はとにかく素晴らしい。すがすがしい大自然の中  
で、アスレチックや魚釣り、オリエンテーリングを行い、英語を学ぶ機会も  
盛りだくさんでみんなで楽しみたいと思います。

遠足の前日4月20日(土)は鶴見区民ホールで「世界7大陸を走って学  
んだ諦めない心」と題して、情熱大陸にも出演されたアドベンチャーラン  
ナー北田雄夫(きただ たかお)さんを迎えて教育講演会を実施します。

北田さんとの出会いは、ある異業種交流会の懇親会でした。たまたま、  
隣のテーブルで名刺交換をして、

(高木)「アドベンチャーランナーって?」  
(北田)「自分の足だけで南極を横断したり、イタリアの山岳地帯を8日間  
で走ったりします。」  
(高木)「死んじゃったりしませんか?」  
(北田)「はい、そんな人もいます。走るのをやめてリタイヤすると死んじ  
ゃいます。助けにいけないような所を走りますから。」  
(高木)「……。」  
「あっ、そういえば…。情熱大陸、出ましたね。」  
(北田)「はい。」

壮絶なレースに出ているとは到底思えない、穏やかな笑顔で答えてくれ  
ました。レースでは誰も助けてくれない。何日もかけて走り続けるので、水・  
食料・衣服・薬、制限重量の中で何をどれぐらい持って走るのか……。そこ  
からレースはすでに始まっています。

自称小心者で、貧血持ち、暑さ寒さに弱く、長距離走が苦手、そして大人  
になった30歳からの挑戦。恵まれたものを持たなかった彼が、極限の地で  
起こるハプニングをどう乗り越えてきたのか。

そもそも、なぜ彼は命をかけてそのようなレースに挑み続けるのか。  
彼の目的は?彼にとって努力とは?  
彼から聞きたいことがたくさんあります。

カイチは子供達に受験や珠算、英語指導を通じて、生きる力の基礎とな  
る、「努力と工夫の仕方」を教えたいと考えています。目標を持ち、計画を立て、  
努力を続ければ叶わない夢はない。少なくとも、私はそう信じています。  
しかし、人生で最も難しいことは、何を夢に、何を目標に持つか、そして、そ  
れについて考え続けていくことではないでしょうか。私はそのような学びは、

教室の外にあるのではないかと思います。人は人によってのみ磨かれます。  
教育講演会は、教室では学べない気づきを子供達に与える機会になれば  
と続けております。

当日は先着200名となっております。塾生だけでなく保護者、お友達の  
ご参加も歓迎いたします。皆様のお越しを心よりお待ちしております。詳し  
くはお知らせを後日配布いたします。

北田雄夫(きただ たかお) アドベンチャーランナー  
生年月日: 出身地: WEBサイト: <http://takaokitada.net/>

中学から走ることを始め、大学  
時代に日本選手権3位(4x400m  
リレー)。翌年の日本選手権で優  
勝を狙うが、日本一に遠く及ばず。  
それから就職をして一度は運動を  
辞めるも、「自分の可能性に挑戦  
したい!」という思いを抑えきれず、  
2014年に会社員を辞めてアド  
ベンチャーマラソンの世界に飛び込  
む。過酷な自然環境の中で熱中  
症、凍傷、感染病、幻覚などと戦

いながら、2017年「世界7大陸アドベンチャーマラソン走破」を日  
本人で初めて達成。2021年にかけて、-40℃の極寒アラスカ  
1,600kmをはじめ、標高5,000mのヒマラヤ山脈、灼熱のサハラ  
砂漠など、世界最高峰

の極限レースの走破に  
挑んでいく。情熱大陸  
などのメディア出演を  
はじめ、講演やレース  
映像の配信などを通  
じて、人に元気と驚き  
を届ける活動も行う。



## Focus



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

若返った諸口教室の  
1年を振り返って

高木 直也 (諸口教室)

私が、諸口教室の教室長になってはや1年が経ちました。この一年、諸口教室ではいろいろなことがありました。



春、諸口教室では40名を超える生徒が中学校に入学。と同時にたくさんの生徒がカイチにやってきました。時を同じくして、諸口教室の卒業生である佐藤先生と奥野先生が、非常勤講師として帰ってきました。生徒として長い時を過ごした二人です。諸口教室のことは熟知しており、生徒に物怖じすることなくどんどん指導に入り生徒達の心を早々につかんでいました。落ち着いた三年生を余所に一年、二年生は元気そのもの。最初こそ騒がしく落ち着きがありませんでしたが、カイチは勉強の仕方を、勉強の姿勢を教える塾です。単に学校内容の知識を教えるだけではありません。カイチで1~2年を過ごした生徒達はONとOFFの切り替えを学び、徐々に、自分で、自分からする生徒に成長してくれています。



今年度の諸口教室は教える側の若返りを図り、若い非常勤の先生が多く指導に入るようになりました。非常勤講師はみな大学生です。しかしカイチの非常勤講師は他所とは違います。

とにかく熱い。授業前後ではどのように授業するかなどを熱心に話し合い、授業後はひたすら反省です。納得のできない授業をしてしまった時には涙を流す先生もいるほどです。生徒が点数を取れなかったテストは問題を自宅に持ち帰り分析し、次の授業に反映させてみたり、補習を私に直訴してきて居残りの時間に補習をしたりなど、若さ溢れるパワーで諸口教室を盛り上げてくれています。

夏場には私が1か月入院することとなり、大変ご心配とご迷惑をおかけしました。その私の穴を埋めたのはなんと塾長先生でした。私が療養している間、塾長先生がフルパワーで授業してくださったおかげで復帰後一か月は生徒達に「塾長先生の授業は〇〇だった」と聞かされ続けることになりました。中でもそろばんの授業では塾長先生と久佐先生の親子共演という今となってはなかなかお目にかかれぬ光景も実現し、生徒達にとってはなかなか印象的な夏になったのではないのでしょうか。



秋が過ぎ、冬がやってくると珠算部競技大会。今年も諸口教室での開催となりました。古市教室が圧倒的な力を見せて優勝。力の差を感じ、肩を落として後日、諸口教室のそろばん授業を見てみると、低学年の生徒達が嫌がる

ことなく黙々と練習してバンバン進級しているではありませんか。また今年からそろばん指導に加わった清家先生、志波先生がそろばんを引っ張る須田先生を全力でサポートして、ひとりひとりにどんどん指導に当たっているという光景を目の当たりにし、今後の諸口教室のそろばんが楽しみになってきました。



今年立ち上がった英検講座では今期中で加入した近久先生が英検直前の時期には毎週朝から英検講座を開き一人でも多くの生徒に合格をと頑張っていました。その結果、今年、多くの合格者が生まれました。

この諸口教室は生徒のみならず、ご家庭のご理解のもと、たくさんの人たちでもって成り立っています。いよいよ2019年度も始まりです。諸口教室で働く職員一人一人が自分の持ち味を發揮し、生徒一人一人の良さを引き出せるように教室をみんなの力で盛り上げていきます。そういえば毎年この時期にグロイングの記事を書いているような気がします。来年もこの時期にまた記事を書くのかもしれませんが、来年の今頃はどうなっているかは想像もつきませんが、来年の今頃素晴らしい1年だったと書けるように職員一同頑張っていきます。



## Education

## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

幼児教育から大学受験までを  
貫く指導理念

福井 幸司 (カイチ予備校・関目教室)

バスカルに通う小学4年生に「三角形の面積」の指導をしていた時の出来事。

いきなり台形に挑戦させてみました。

「これ、どうやるの?」と生徒は尋ねてきましたが、にっこり笑って放置。

しばらく台形を睨んで考え込んでいましたが、パッと表情が明るくなって「あー、そういうことか!」と言って、対角線を書き足しました。これで高さの等しい2つの三角形に分けて自分の力だけで正解できました。



バスカルの指導理念に「これまで身に付けた知識を駆使して未知の問題に取り組み、新たな知識を自ら獲得させる」というものがあります。

また、小学3年生に「たてが横よりも25cm長い長方形のまわりの長さが250cmのとき、たてと横の長さを求めなさい」という問題にトライさせた時のやり取り。

自分で縦長の長方形の絵を描き、分かっている長さを書き入れた後、しばらく考え込んでいました。

私が「どうなったら分かると思う?」と尋ねると、すぐに「正方形なら分かる」と返答。

「じゃあ、その絵を正方形にしてみたら?」とヒントを出すと、横線を1本書き足し、正方形の上に2本飛び出た25cmの縦線を認識し、まわりの長さが200cmの正方形を利用して答えを求めることができました。

難しい問題は「自分の知っている理想の形に変えることができないか?」を考えるように指導しています。これは小学生や中学生だけでなく、高校生についても同様です。



カイチのクラス指導の特徴は、どの科目も先生と生徒達のやり取りで進む活気のある授業です。解法のテクニックを一方通行の講義で詰め込むものではありません。

実はカイチ予備校の冬期講習の高2クラスで、数学Iで解ける東京大学の図形問題に挑戦させました。難しい問題でしたが、カイチの授業らしく「結局どこの長さが分かれば嬉しい?」、「最大・最小を問われたときに何が思い浮かぶ?」など、私の問いかけにリードされ、正

解にたどり着きました。

人工知能の進化に伴い、人間に求められる力は「知識の量」ではなくとも思います。知識を覚え、瞬時に必要なものを検索する能力に勝てるはずありません。当然、勝てなくてもこのような力が必要であることには変わりはないでしょう。ただ優先順位は低下すると思います。



では最も求められる力は何か?

それは「未知の問題に対して、これまで身に付けた知識や経験を活用し、解決する力」すなわち冒頭のバスカルの指導理念そのものではないでしょうか?

例題と解法の組み合わせを大量に詰め込むのではなく、知識を使える形で暗記(インプット)し、常に工夫して使う(アウトプット)訓練をする指導が、今後ますます重視されていくでしょう。

「幼児教育から大学受験までを貫くカイチの算数・数学指導」が最先端の指導と地域の皆様に認められよう、取り組んでいきたいと思えます。

